

沼、水路などに生育します。同属のトリゲモ *Najas minor* と酷似しており、葯室（花粉になる細胞が入っている袋）の数が 1 室ならトリゲモ、4 室ならオオトリゲモです。しかしこの違いは、顕微鏡を使わなければ分かりません。琵琶湖では、トリゲモとオオトリゲモの双方が確認されていますが、オオトリゲモの方が圧倒的に多く分布しているので（芳賀ほか 2023）、ここではオオトリゲモとしました。

オオトリゲモは繁殖力が強く、水槽では肥料や CO₂ の添加がなくても容易に育てることができます。しかし、大阪府レッドリストでは絶滅危惧 I 類とされています。つまり、大阪ではオオトリゲモが生育できる環境がなくなっている、ということです。

・ムサシモ *Najas ancistrocarpa*

草体の小ささから、採取したときはサガミトリゲモ（ヒロハトリゲモ）*Najas foveolata* ではないかと思ったのですが、琵琶湖にサガミトリゲモの採取記録はありません。その代わりに、2019 年にムサシモが新たに発見されたとの報告があったので（龍谷大学ニュースセンター 2019）、私はこの水草をムサシモと判断しました。

ムサシモは、溜池や水田などに生える、イバラモ属の一年草です。国内では本州と四国に分布していますが、産地は極めて少ないです。国外では、台湾と中国で分布が確認されています。

ムサシモは、オオトリゲモよりかなり小さいです。写真をみればわかるように、葉の大きさや草体の雰囲気などが、オオトリゲモとは明らかに違います。

オオトリゲモ同様、ムサシモも水槽での育成は容易ですが、光は強めの方がいいです。ムサシモの産地が稀なのは元からなのか、それとも環境破壊によるものなのか、調べてみましたがわかりませんでした。なお大阪府レッドリストでは、ムサシモは絶滅種とされていますが、2023 年に岸和田市で発見されています（岸和田市 2023）。

・ミズオオバコ *Ottelia alismoides*

ミズオオバコはアジアとオーストラリアに分布する、ミズオオバコ属の一年草です。水田、用水路、溜池などに生育します。オオバコのような葉の形をしているのが、名前の由来です。葉の大きさは、成長時期や生育環境によって変異が多く、深い場所に生育するものは大型化します。葉の色も様々で、幼株は鮮やかな緑色、成株は紫味を帯び、水田で生育するものはくすんだ緑～赤褐色になります（松岡 online）。



▲ミズオオバコ



▲用水路に自生するミズオオバコ

ミズオオバコは、大阪府レッドリストでは準絶滅危惧とされています。私はこの水草をずっと探していたのですが全く見つからず、今回ようやく出会うことができました。ミズオオバコはその独特の姿から、熱帯魚水草愛好家の間でもわりと知られています。

・フラスコモの一種 *Nitella* sp.

このフラスコモは、昨夏に琵琶湖周辺の水路で採取し、1 年間水槽で維持してきたもので、今年も同じ場所で生育していることを確認しました。

フラスコモは、車軸藻類に分類される藻類の仲間、主に湖沼に生育します。しかし私が採取したこのフラスコモは、流れの早い用水路で大きな群落をつくっていました。琵琶湖博物館に問い合わせたところ、車軸



▲フラスコモの一種